

KYOTO
HOTO

KYOTO版画

22

Summer
2016



Kyoto Print Exhibition Executive Committee

Newsletter



Soft Ground Etching, H80xW60cm, 2014

Rie Hidaka "Some Secrets"



Woodcut, H22.5xW30cm, 2015

Hiromu Kato "Scenery"



Interview of
International Print
Triennial in Krakow
by Naomi Kubo



■ 活動報告
■ 日本・カナダ国際
■ 版画展のお知らせ
■ 掲示板

特集
クラクフ国際版画
トリエンナーレ訪問記
久保直美

作家紹介
日本・オーストラリア
国際版画二〇一四
アワガミファクトリー賞
受賞作家
加藤宏
日高理恵

木 版 画
加藤 宏
Hiromu Kato

アワガミファクトリー賞

- '46 愛知県生まれ
- '11 飛騨高山現代木版画ビエンナーレ(協賛賞)
国展(奨励賞)
高知国際版画トリエンナーレ('14)
山本鼎版画大賞展('15)
- '12 鹿沼市立川上澄生美術館木版画展('14, '16)
- '15 日本・オーストラリア国際版画展アワガミファクトリー賞



「郊外」H77×W98cm / 水性木版 / 2014

三〇歳を過ぎた頃、ある美術誌で「小野忠重」の版画作品を観て、陰刻法による油絵的なマチエールの作品に感動した。自分にも出来ないかと我流で始めたことがきっかけと記憶しています。その後、NHKの通信講座を知り「木版画コース」を二年間学んだ。提出課題が添削され講師のコメント



が返って来るのを楽しみにしていました。その後「国展」に出品する機会があり、抽象的な作品に興味を持ち現在に至っています。
私達は自然の中に生かされ、常に自然と対峙した存在であると思っています。若い時から油絵に興味を持ち、特に風景画を描き続けてきた点から版画作品も風景の色と形を心象の視点で捉えた半抽象的な作品作りをコンセプトとしています。
身の回りには抽象的な美しさは多々潜んでいます。しかしイメージとしてなかなか気付かない。造形物からの美しさ、組み合わせや、平面構成、表現密度による美しさ、更には有機無機質固有の美しさ等イメージに限りがない。制作にはこの段階が最も大切であると思っているがいつも暗中模索に終わっています。
常に思ことは個性的な自分だけの作品を作れないものかと、高齢となった今、夢と終わることは間違いないでしょう。

アワガミファクトリー賞

銅 版 画 日高 理恵 Rie Hidaka



- '82 京都市立芸術大学 工芸科 陶磁器コース卒業
- '13 第59回全関西美術展木版イ工業賞、日本版画協会展入選('14)
- '14 日本オーストラリア国際版画展 アワガミファクトリー賞
- '15 山本鼎版画大賞展 入選、日本版画協会展 入選

鉛筆の黒い線が何層にも重なって、どんどん紙にモノトーンの世界が広がっていく様子が好きで、作品は主にソフトグラウンドエッチングで制作しています。
厚みのあるやわらかな色の版画紙と黒いインクの調和も私が銅版画に魅かれる理由のひとつです。今は作品に人物が多く登場していて、ある一瞬の空気感、しぐさや表情、心の動き…自然と自分の中にわいてきたものを表現しています。今後、それらが画面上にどのような「かたち」となってあらわれるのか、自分にもわかりません。
制作する上で大切だと考えていることは、ごく基本的なことばかりですが、あまり迷わずに思い切った、自分らしい表現をすること、今後でもできるだけ継続して、制作を続けること、———長く関わらなければ何もつかめないと思うからです。そして集中力をもって制作すること、今後の夢は、今の延長線上に本当に自分が納得できるものをつくりたいということです。あと、英語が話せるようになること、パソコンが上手に使えるようになること、海外の国々へ行くこと、です。

「日本・オーストラリア国際版画展」ではアワガミファクトリー賞を頂き、ありがとうございました。私にとってこの賞は今も大きな励みとなっています。
銅版画を始めたきっかけは九年ほど前に偶然、現在所属しているアトリエ凹凸を知ったことです。当時、何の知識もないままにこれまで続けてきましたが、本当に銅版画が面白くなってきたのは、ここ三〜四年です。



「the position1」H80×W60cm / ソフトグラウンドエッチング / 2014

クラクフ国際版画トリエンナーレ訪問記

久保 直美



街には展覧会のポスターが貼ってある

クラクフ国際版画トリエンナーレの入選発表の日、自分の名前を見つけて余りの嬉しさに事務局からの連絡も待たずに航空チケットを購入しました。

開催地であるクラクフ歴史地区はポーランド王国のかつての首都で、中世の街並みが残り、ヨーロッパでもっとも美しい都市の一つと言われているそうで心が弾みます。

私の滞在は二日半。到着したのはオープニング前日の九月一七日夜でした。ウィーンで乗り換えた小さな飛行機で到着し、タクシーでクラクフ歴史地区に入った時、あまりにも美しい石畳の風景に圧倒されました。



Gallery Bunkier Sztuki 展示風景

クラクフでは、一五日から一九日の期間中、グラフィックアートの展覧会のオープニングが街中のいたる所で行われ、そのメインがクラクフ国際版画トリエンナーレとなっているようです。

一八日夕方六時からオープニングは会場である「Gallery Bunkier Sztuki」の外で行われる簡単なものだったにもかかわらず、沢山の方々が集まっていました。見渡せば年齢層は幅広く、この展覧会への人々の関心の高さを感じます。スピーチの後、開場となり私も皆の流れに続いて中に入り、自分の作品を見つけた時の感動は今でも忘れられません。



クラクフの街並

着物で行った事が皆の目を引き、カタログにサインを求められるという初めての経験をしました。その上テレビのインタビューを受ける事となり、一緒に行った友人が英語で通訳してくれ、技法やコンセプト、この展覧会をどう思うかなどをお話ししました。テレビ局はドキュメンタリー番組を制作するために素材を集めているそうで、私もその一つになったようです。緊張したので、どんな顔をしていたのか気になります。その映像を見たいような、見たくないような・・・



Gallery Bunkier Sztuki の前。オープニング後の開場を待つ人々。



撮影の様子

実は着物で参加することは、黒崎彰先生のアドバイスでもあります。そして、クラクフ国際版画トリエンナーレ (SMTG) の理事長であるリシャルド・オトレンバ氏をご紹介頂き、会場でお会いする事ができました。とても感謝しています。

夜八時から授賞式は「Meeting Chamber of the City Council」訳すと「市議会の会議室」という場所で開催されました。会場の中に入ると、中世の絵の中に自分がいるのではないかと錯覚するような美しさでした。唯一お会いした、日本から来られている他の入選者の方のお蔭で、展示会



Meeting Chamber of the City Council での授賞式の様子

場から少し離れたこの場所にたどり着く事が出来ました。終始大変お世話になりました。

授賞式の後、隣接するホールで立食パーティーが行われました。地元の方はもちろん、各国からの受賞者や入選者の方たちが参加されており、賑わいを見せていました。そして、私の作品を選んでくださった審査員の方と直接お会いする事が出来、とても嬉しく光栄に思いました。様々な方と触れ合える機会となり、有意義な時間を過ごせました。

会場を出たのは夜十時半。友人とホテルまで歩く途中の道端では、沢山の人たちが石畳のオープントラスで楽しそうにグラスを傾けていました。ポーランド料理は薄味で美味しく、日本人の口にも合うと思いました。そして街中の治安は良い印象を受けました。クラクフ歴史地区内は歩いて巡る事が可能な規模でしたが、もう少し滞在が長ければ、散策したい場所はまだまだあり、それが心残りではありません。

冬はマイナスになるといふ寒さの厳しいクラクフも、九月の夜は心地よい良い風が吹いています。三年後、この美しい街をまた訪れる事が出来るように精進したいと思う一日となりました。

活動報告

展覧会名：第7回ポレポレ展

日 時：2015年11月17日(火)～11月26日(木)

会 場：ART FORUM JARFO

会場住所：京都市東山区三条通東大路東入今小路町81番地1F

出 品 者：伊藤尚子、片岡れいこ、川端千絵、汾陽佐和子、千明、
ドモンコス紀子、三上景子（五十音順）

関東で生活をして3年目の夏、育児により少し制作から離れていた私に、ポレポレ展出品の依頼が！嬉しいのと同時に、久しぶりの作品出品で、いつもとは違う緊張が走りました。搬入には、久しぶりにもかかわらず、暖かく迎え入れて下さったグループ展出品の皆様が居られて、展覧会はまだ始まっていないのに、既に参加出来て良かったと確信しました。出品作家は偶然にも皆女性で、それぞれの作品から、各作家のしなやかに生きる姿勢を拝見させて頂きました。この場をお借りして、御高覧頂いた皆様と参加させて頂きました事を厚く御礼申し上げます。

文・写真：三上景子



展覧会名：KYOTO 版画 2016 選抜展

日 時：2016年3月1日(火)～3月13日(日)

会 場：ART FORUM JARFO

会場住所：京都市東山区三条通東大路東入今小路町81番地1F

出 品 者：加藤恵、木村寿子、謝敷ゆうり、神野茅生子、野嶋革、
三宅由里子（五十音順）

今回は選抜展と同時開催で京都十景の展示も行いました。選抜展の方は銅版作家の方が多く、私自身も銅版なので皆さんの作品を拝見してとても勉強になりました。個性的な作品が揃いましたが、みんなで配置にあれこれと悩んだ甲斐もあり納得のいく展示になったと思います。オープニングパーティーは総会と同じ日だったので、帰りに立ち寄ってくださった方も多く、にぎやかな時間を過ごせました。どうもありがとうございました。

文・写真：謝敷ゆうり



展覧会名：京都十景第6集出版記念展

日 時：2015年12月22日(火)～12月27日(日)

会 場：ギャラリーヒルゲート

会場住所：〒604-8081 京都市中京区寺町通三条上天性寺前町535

出 品 者：黒崎彰、近藤幸、斉藤修、坂爪厚生、佐久間嘉明、
神野茅生子、田島征彦、縄田也千、服部久美子、三田村直美

私がモチーフとして選んだ花山天文台は元々京都大学にあったものだが、市電の開通に伴い観測環境が悪くなると、1929年今の山科の花山に設立された。主に太陽について黒点の観測や、太陽光を分光器で分解して観測されている。山科駅から軽いハイキングで観測所に着く。アンティークな建物や建設当時の資料なども興味深い。天気が良ければ70cmシーロスタット望遠鏡を通った光が暗い教室のような観測室の壁一面に、一瞬にして光を走らせる様は、「美しさに息をのむ」としか言いようがない。虹が走る。一瞬で虹が横に走る！ 存続が危ぶまれたこともあったそうだが、京都の財産としてこれからも残してもらって感動を与えてほしいと思います。

文：三田村直美／写真撮影：近藤幸



日本・カナダ 国際版画展2016

現代カナダを代表する版画作家45名82作品、
西日本版画作家87名の作品を展示。

会期中は、シンポジウムやギャラリートーク、
ワークショップやデモンストレーションなど、
気軽に参加頂けるイベントを企画しています。

普段、日本では見ることもないカナダの現代版画を
一堂にご覧頂ける機会になれば幸いです。

京都展 | 2016年10月4日(火)～10月16日(日)
京都市美術館

徳島展 | 2016年10月22日(土)～10月30日(日)
徳島県立近代美術館ギャラリー
+ 徳島県立21世紀館(多目的活動室)

<http://www.kyotohanga.com>

掲 示 板

会報にお寄せいただいた版画京都展実行委員会メンバーの展覧会情報です。
詳細は各会場へお問い合わせください。

●朝日 みお

[個展 | AHAF(アジア ホテル アート フェア)]

会期：2016年8月25～8月28日

会場：Wマリオットホテル ソウル
176, Sinbanpo-ro, Seocho-gu
ソウル 06546 韓国
TEL：+82-2-62826262

●濱本 澄江

[個展 | ペーパー・スクリーン版画展 Sounds good!]

会期：2016年10月4日～10月16日

会場：GALLERY とわーる
〒810-0001 福岡市中央区天 2-8-34
住友生命ビル 1F
TEL：092-714-3767

●伊藤 尚子

[個展 | 伊藤尚子個展]

会期：2016年10月22日～10月29日

会場：ギャラリーオキュルス
東京都港区白金台2-26-8
岡田ビル202
TEL：03-3445-50881

[個展 | 伊藤尚子個展]

会期：2016年12月17日～12月25日

会場：LADS GALLERY
大阪市福島区福島3丁目1-39
TEL：06-6453-5706

●平木 美鶴

[個展 | 平木美鶴作品展]

会期：2017年2月8日～2月14日

会場：高島屋大阪店6階ギャラリー NEXT
大阪市中央区難波5-1-5
TEL：06-6631-1101

※会期順

発 行：版画京都展実行委員会
(KYOTO 版画)
問い合わせ：075-702-5142
会 報 係：西住恵子、謝敷ゆうり
ツツミアスカ

